

(日本史 A プリント(3))

I、近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱

c. 幕末の政治過程 - 尊王攘夷運動の展開(2)

⑤老中安藤信正による[1 公武合体]運動→皇女[2 和宮]を將軍夫人に
→尊王攘夷派の反発→1862年、坂下門外の変で安藤失脚

⑥島津久光([3 薩摩藩主の父])、天皇の權威と軍事力を背景に幕政改革案を強要(文久の改革)
→帰路、イギリス人殺傷事件を起こす([4 生麦]事件)

↓
將軍後見職[5 一橋慶喜]、政事総裁職[6 徳川慶永](福井)、京都守護職松平容保(会津)
とする改革派政権成立

⑦京都での尊王攘夷派の活動活発化(←[7 長州]藩の動き活発化)

↓
[8 三条実美]ら急進派公家を通して朝廷工作を強める→幕府に[9 攘夷実行]をせまる

↓
幕府、攘夷決行を命令(1863)→長州藩・外国船を砲撃、天誅組の変、生田の変など発生

⑧1863年 会津藩・[10 薩摩]藩など、公武合体派の公家と結び[11 長州]藩と急進派公家らを京都から追放。(文久3年[12 八月十八日]の政変・七卿の都落ち)

1863年、[13 池田屋]事件発生、[14 新撰組]が尊攘派志士多数を殺害

↓
⑨1864年、[15 長州]藩など、武力による京都侵入をはかる→失敗([16 禁門]の変)

⑩1864 列強による[17 四国艦隊下関砲撃]事件で、長州藩敗北

1864 幕府、第一次[18 長州征討]を実施

→長州藩における[19 恭順]派政権の勝利＝幕府との和解成立＝[20 尊王攘夷]派敗北

⑪1863年[21 薩英]戦争発生(←[22 生麦]事件がきっかけ)

→勝敗つかず、薩摩とイギリスの接近へ＝[23 大久保利通][24 西郷隆盛]らの藩政支配に

⑫倒幕派の成立…[25 攘夷]の不可能と[26 幕政]改革による政治革新を不可能と認識。

→幕府を打倒して統一国家樹立をめざす。

⑬列強の動き→軍艦を兵庫沖に派遣、条約[27 勅許]を獲得、[28 改税約書]を締結

→いつそのの不平等に

イギリス(公使[29 パークス])→薩摩・長州の[30 倒幕派]との結びつきを強める。

[31 フランス](公使 ロッシュ)＝軍事顧問団の派遣など[32 幕府]幕府との結合を深める

d. 討幕運動の展開

① 1864 年 長州藩において[33 高杉晋作]ら[34 奇兵隊]を率い反乱をおこす。
→[35 倒幕]派、藩政を奪取

② 1866 年 [36 坂本竜馬]の仲介で[37 薩長同盟]結成



1866 年 幕府の第2回[38 長州征討]

・各藩の強い反発を受ける←各地で[39 世直し一揆]、[40 うちこわし]の激発

→ 1867 年になると[41 ええじゃないか]の集団乱舞発生

・長州藩の徹底抗戦→各地で幕府軍敗れる



將軍[42 家茂]の死によって中断＝失敗

e. 幕府の滅亡

① 15代[43 慶喜]、將軍となる＝[44 幕政]改革をすすめる

② 1867 年、倒幕派(薩摩・長州)、[45 武力倒幕]を決意

→[(a) 岩倉具視]らの活動で[46 討幕の密勅]を受ける(10月14日)



[47 山内重信](土佐)、後藤象二郎・[48 坂本龍馬]の説を入れ慶喜に政権返還をすすめる。

＝將軍を中心とする[49 雄藩連合]樹立をすすめる



10月14日將軍慶喜、[50 大政奉還]の上表を朝廷に提出

慶喜は大政奉還で何を目指したのか

(a) 朝廷(天皇)中心の政権ができて、それを維持する力量も、財政力もないので、朝廷は自分に頼ってくと考えた

⑤ 12月9日 倒幕派、[51 王政復古]の発令をだし天皇中心の新政府樹立を宣言

→[52 將軍]や摂政・関白の廃止、三職の設置を決定

[53 小御所]会議において、慶喜に[54 辞官納地]を要求→將軍、大坂に撤退

1. 近代国家の成立 2. 明治維新と富国強兵

1868年、新しく天皇になった明治天皇は、5項目からなる新しい政治の方針を発表しました。これを五箇条の御誓文といひます。そして、政府が日本全体を支配できるよう、まず、大名から領地と人々を政府に返させるという版籍奉還を行いました。また、藩をなくして府と県を置くという廃藩置県を行いました。次に、政府にお金を集めるために、土地の値段である地価を決め、その地価をもとに税をお金で集める地租改正を1873年に行いました。また強い軍隊を組織するために、20歳になったら男性が軍隊に入る徴兵令を定めました。そのほかにも、学校を作ったりして、国を豊かにして、強い軍隊を持つための富国強兵をすすめました。さらに、これまでの厳しい身分制度を改めて、四民平等としました。このような政治の変化を、明治維新といひます。